

Agile Japan 2024

人の力を引き出すアジャイル×マネジメント

2024/11/22

株式会社MSOL Digital
Business Agile Department
鈴木 康一郎



鈴木 康一郎

Koichiro Suzuki

株式会社MSOL Digital
Business Agile Department



[業務経歴]

- ・ 報道ベンチャーへ参画し、AIやビッグデータを活用したプロダクトのサービスオペレーションを担い、同時に組織のマネジメントを経験
- ・ MSOL独自のアジャイル研修コンテンツの設計・開発を経験
- ・ 国内の大手通信サービス会社にて、新サービス創出ワークショップのファシリテート、リスタートアップ型サービス開発プロセス構築、業務BPOサービス企画支援、Salesforce開発におけるスクラムマスター、新規事業の立ち上げ支援など多数のプロジェクトを経験
- ・ MSOLのA-CoE (アジャイルセンターオブエクセレンス) においてアジャイル支援事例の蓄積、展開を推進

[得意分野]

- ・ アジャイルプロジェクトマネジメント
- ・ 新規事業開発
- ・ チームビルディング

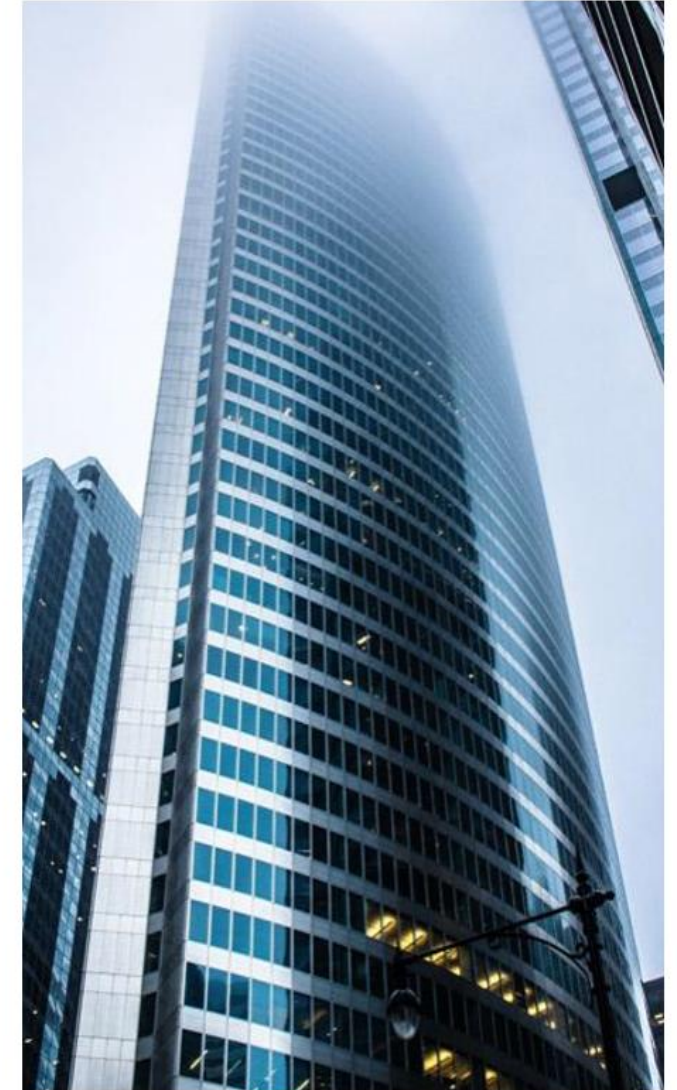
[主な資格/認定]

- ・ Disciplined Agile® Scrum Master (DASM)
- ・ 認定スクラムマスター (CSM)
- ・ 認定プロダクトオーナー (CSPO)
- ・ G検定

[その他活動]

- ・ PMI日本支部 DAコミュニティ所属

- 社名** 株式会社 MSOL Digital (英名 : MSOL Digital Co.,Ltd.)
- 設立** 2024年1月
- 代表者** 代表取締役 兼 CEO 阪本 幸誠
- 本社所在地** 〒107-6229 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー 29F
- 事業内容** デジタル変革支援およびアジャイルマネジメントのコンサルティングサービス
- ・ システムコンサルティング
 - ・ システム開発・システムインテグレーション支援
 - ・ ビッグデータとデータ分析支援
 - ・ Digital IT 領域における新規事業開発支援およびコンサルティング
 - ・ 組織改革, 業務改善におけるマネジメントコンサルティング
 - ・ 企業の合併・提携・営業権の譲渡に関する指導およびコンサルティング
- 従業員数** 114名 (MSOL Digital 単体)
- 出資比率** 株式会社マネジメントソリューションズ100%
- グループ会社** 株式会社マネジメントソリューションズ, 麦高隆管理咨询 (上海) 有限公司,
株式会社テトラ・コミュニケーションズ



2024年6月時点



Brand Purpose

デジタル∞マネジメントの変革力で未来をつくる

Mission & Vision

デジタルとマネジメントのプロフェッショナルとして
顧客・産業・社会の発展に資する
DXエコシステム共創のベストパートナーとなる

Concept

No.1 Business Agile Company

マネジメントしてありますか？

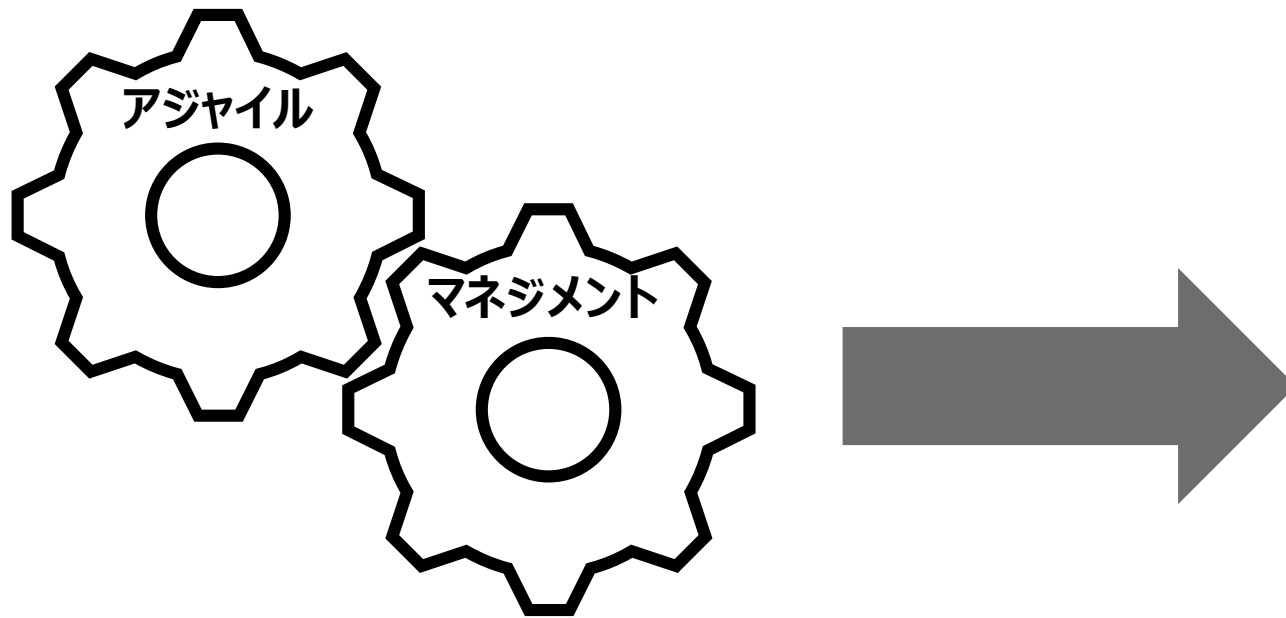
日本においては「マネジメント」=「管理」と訳されることが多く
マネジメント（=管理）とアジャイルは結びつきにくいのではないか

Managementは「管理」



アジャイルにマネジメント(管理)って必要？

アジャイルとマネジメントは密接に関わる概念であり、
マネジメントを意識することで、よりアジャイルが良いモノとなると信じている

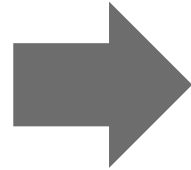


ラテン語の 'manus (手)' 'agere (導く)' に由来し、
野生馬の馴致 (なれさせること) を表す言葉として発展してきた (諸説あり)

Manus + agere



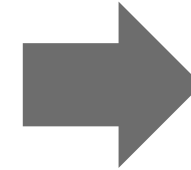
「手」+「導く」



Maneggiare



「野生馬の馴致」



Management



「管理」

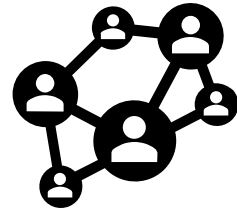
コントロールが難しい事象に対して、手（人だからこそできること）を使いながら、目的の達成に向けてうまく導くこと（泥臭さも重要）



“アジャイルプロジェクト”においてマネジメントが必要だと感じたとき（1/2）

1

一筋縄では
いかない人間関係



強権的なプロダクトオーナーで
開発側が委縮してしまって
本当に思っていることが
なかなか言えない

2

協働こそが
真のニーズ



この会社に合ったプロセスを
構築していきたい
そのために対話を重ねながら
協働制作をすることが条件

“アジャイルプロジェクト”においてマネジメントが必要だと感じたとき（2/2）

3

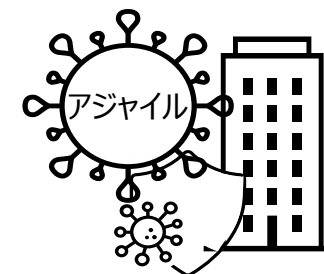
過度な期待を
受けたフレームワーク・プラクティス



あるアジャイルフレームワークを
採用してビジネスに取り組んでいたが、
教科書通りにやることに固執しすぎて
うまくいかない

4

アジャイルアレルギー



市場の変化に
機動力を持って対応するため
アジャイルな取り組みを推進したいが、
過去に全社的なアジャイル導入の
失敗経験があり、「アジャイル」が禁句状態

下記4つの理由からアジャイルにマネジメントが必要だと考える

人間の複雑性に対応するため

人間中心の価値観を支えるため

プラクティスやツールの限界に対応するため

最終的な目標達成のため

アジャイルソフトウェア開発宣言

私たちは、ソフトウェア開発の実践
あるいは実践を手助けをする活動を通じて、
よりよい開発方法を見つけだそうとしている。
この活動を通して、私たちは以下の価値に至った。

プロセスやツールよりも**個人と対話**を、
包括的なドキュメントよりも**動くソフトウェア**を、
契約交渉よりも**顧客との協調**を、
計画に従うことよりも**変化への対応**を、

価値とする。すなわち、**左記**のことがらに価値があることを
認めながらも、私たちは**右記**のことがらにより価値をおく。

Kent Beck
Mike Beedle
Arie van Bennekum
Alistair Cockburn
Ward Cunningham
Martin Fowler

James Grenning
Jim Highsmith
Andrew Hunt
Ron Jeffries
Jon Kern
Brian Marick

Robert C. Martin
Steve Mellor
Ken Schwaber
Jeff Sutherland
Dave Thomas

© 2001, 上記の著者たち

この宣言は、この注意書きも含めた形で全文を含めることを条件に自由にコピーしてよい。

<https://agilemanifesto.org/iso/ja/manifesto.html>

「マネジメント」支援を体現した行動事例を紹介する

不具合が発生しスケジュールに大きな影響を与えかねないケース

- 問題の発生を把握
- ゴールへ与える影響を確認
- プロダクトオーナーへ率先して報告

現実を受け止める

- チーム全体へ問題提起
- 建設的な議論を支援
- 考えるためのインプット情報をまとめ上げる

一緒に考える

- ステークホルダーへの報告とフォローアップ
- 再発防止に向けた方策の提案・導入

実行支援する

ただし、上記の行動をただすれば良いのではなく、基礎コンピテンシーとしての、
「変化を受け入れることができる適応力」
「信頼関係をもとに関係者を折衝し推進していく人間力」
「計画したことを折れずにやりきる実行力」

が必要となる。

3つの基礎体力に支えられたマネジメントサイクルを大切にしている。



3つの基礎体力

適応力

人間力

実行力



デジタル∞マネジメントの変革力で未来をつくる